

口語訳

- 97 老子は、無為自然に淡々と生きたし
- 98 莊子は、名利など望まない偏屈な生き方をした。
- 99 人間の本性は不変不易の常道に背いてはいけないし
- 100 人生の根本は、本来のままに、ありのままに振る舞うべきだ。
- 101 (莊子の)「齊物論が説く万物はみなひとつ」という考え方は、今の私にとって心に熱く伝わってくる言葉である。
- 102 また(莊子の) 寓言篇のなかの話は、私の気分をしつとりと和らいだ気分にしてくれる。
- 103 しかしながら(初夏の) 景色は老莊のいう夢よりも奥深くみえ、
- 104 自然の趣を愛でるといふ(詩人としての)私の性癖は、まだなおってはいない。(悟りきっていないのである)

語釈

97○老君：老子の尊称。

『漢語大詞典』には「指老子、李老君、或太上老君的省称。」と説明する。『菅家文章』「223 読書」に「有迹崇尼父、無為拜老君」の句がみえる。

○垂迹：「仏教用語」として、一義的には「垂跡」の項に「仏が衆生を救うために、生まれ変わって仮にこの世に出現すること」の意味があるが、『漢語大詞典』には、「垂跡」の項に、「仏教謂仏、菩薩従本体